

特集

「もっと林産試験場をご利用ください」の 編集にあたって

- 企業のワンランクアップをめざして -

編集委員長 開本孝昭

今回は北海道立林産試験場が行っています技術支援制度について、関係機関や企業の皆さまにその内容のご理解と積極的にご活用をいただくことを目的に企画しました。

今や日本の経済は円高、市場解放、価格破壊等により不透明感がますます強まる中で、多くの企業がこれまで以上に厳しい環境におかれていることと思われます。

森林王国といわれてきた北海道も木材資源の減少や質的低下と相まって、木材の輸入率は53%を超え、特にこれまで道産材の原料にウェイトをおいてきた企業は、さらに厳しい状況を迎えています。

これまでの景気のサイクルは一定周期の中で繰り返され、一時耐え忍んでいればまた回復してくるといった流れの中で対応できましたが、今後はこのようなパターンでは進まないことは、企業の方々が強く認識されているのではないかと思います。

このような厳しい状況の中でこそ、企業は新たな対応を考えていかなければ生き残れないような時期にきていますし、林産試験場としてもこれまで以上に企業に対してお力になれる存在でなければならぬと考えています。

昨年、林産試験場の今後の方向性をつかむための一つとして、「今、企業が何を望んでいるか」等について、関連企業の皆さまを対象に、アンケート調査を行いました。その回収率はほぼ50%でしたが、そのなかで「技術支援制度を知らなかった」という企業が23%ありました。数字的には思ったより知っていたいただいていると安どしているところもありますが、むしろ回答をいただけなかった残り半数の企業がこの点についてご存じない方々が多いのではないかと危惧しています。私たちは機会をとらえながらPRをしているところですが、まだまだ努力が足りないことを痛感しています。

この機会に、ぜひ「技術支援制度にはどのようなものがあるのか」「どうすれば技術支援を受けられるのか」等を知っていただくとともに、すでに知っておられる企業の方々も、さらに林産試験場を大いにご利用いただき、この厳しい環境の中で、相互に知恵を出し合い共に汗を出しながらこの難局を乗り越えるよう頑張ろうではありませんか。

もちろん技術支援制度に過度の期待は禁物ですが、これまで、それなりの成果が上がってきたものと評価しています。特に企業の皆さまと一緒に共同研究や受託研究等は、新しい製品開発の分野ですので、お互いの信頼関係と数多くの情報交換が重要な鍵になってきます。

林産試験場はいつも開かれておりますので、とにかく戸をたたいてみてください。皆さまのために、研究員が親身になって対応いたします。

本特集号では、そのようなことを願って編集企画しましたので、ご活用いただければ幸いです。

(企画指導部長)